



みなさんの生活や想い、行動にも
何か変化がありましたでしょうか？

2015.2.11開催 しあわせ会議のようす（桜座）

まじめに、おもしろく、みんなで作った総合計画も折り返し地点。

5年間、町民一人ひとりの「やってみよう」という気持ちが存分に発揮される

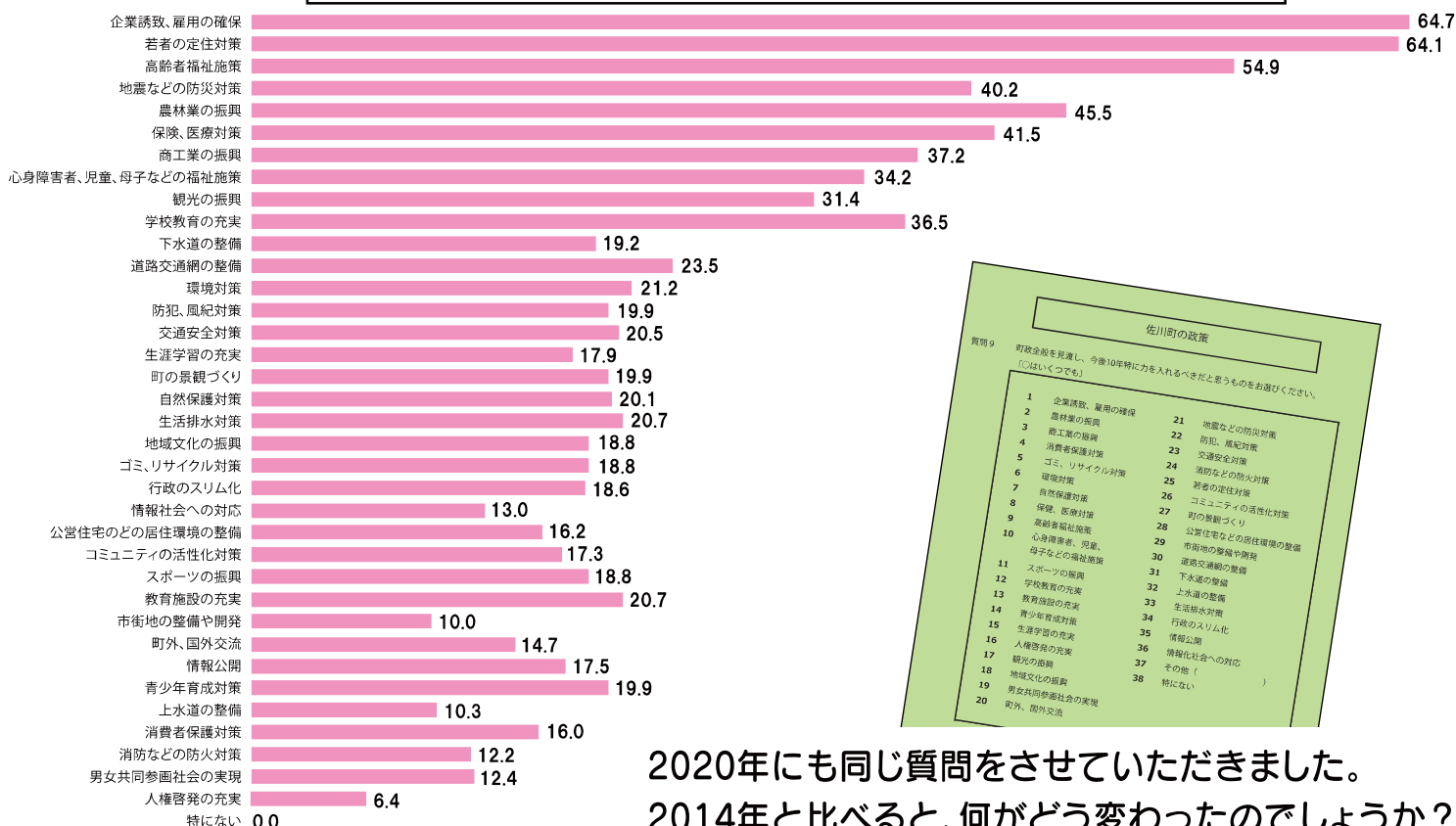
まちづくりに「チームさかわ」で取り組んできました。

こうした様々な取り組みの”今“を3回にわたって紹介します。

今月は①「教育」②「産業と仕事」について。

2014 年 みなさんにお願したアンケートのひとつです。

質問：町政全般を見渡し、今後10年特に力を入れるべきだと思うもの



2020年にも同じ質問をさせていただきました。
2014年と比べると、何がどう変わったのでしょうか？
少しではありますが、ひも解いてみたいと思います。

③ 広報さかわ R3.7

みんなでつくる 第5次佐川町総合計画

中間報告



7月号
①教育
②産業と仕事

8月号
③結婚・出産・育児
④観光振興と情報発信

9月号
⑤健康と福祉
⑥安全・安心
⑦行財政

広報さかわ

7月号

令和3年7月1日発行

今月の表紙



南北朝時代から続く
佐川町の古刹「乗台
寺」。毎年7月24日
には、納涼をかねた文
殊大祭が行われてき
ました。
子供たちの元気な声
が響き渡るにぎやか
な光景が早く戻って
きますように。

PICK UP CONTENTS

- P 2 [特集]
総合計画 中間報告
- P 8 高北病院
- P 10 子育て・健康応援ページ
- P 14 おしらせ
- P 31 地質館だより
- P 32 ボタニカルニュース
- P 33 青山文庫だより & 文芸
- P 34 さかわ観光協会
- P 35 さかわ発明ラボ
- P 36 としょかんだより
- P 37 学校だより-佐川中学校-

広報さかわ R3.7 ②



by
さかわ発明ラボ

放課後発明クラブ

子どもたちの楽しそうな声が響く、ものづくり体験ワークショップ



放課後発明クラブは、子どもたちに、「ものづくりを通して豊かな心を育ててもらいたい」という想いから4年前にスタート。クラブ申込者数も年々増えており、学びの場としての成果も見え始めています。



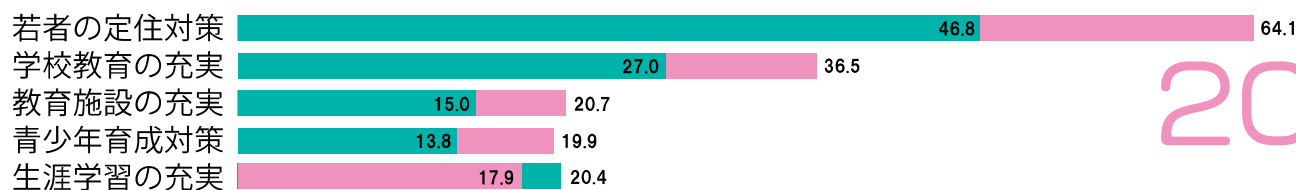
地域の活性化に寄与したい！
佐高生による「さくら咲くプロジェクト」



生涯学習のさらなる充実を目指して、
さかわ発明ラボによる大人向けのワークショップや
高知大学の出前講座も行われています。

2020

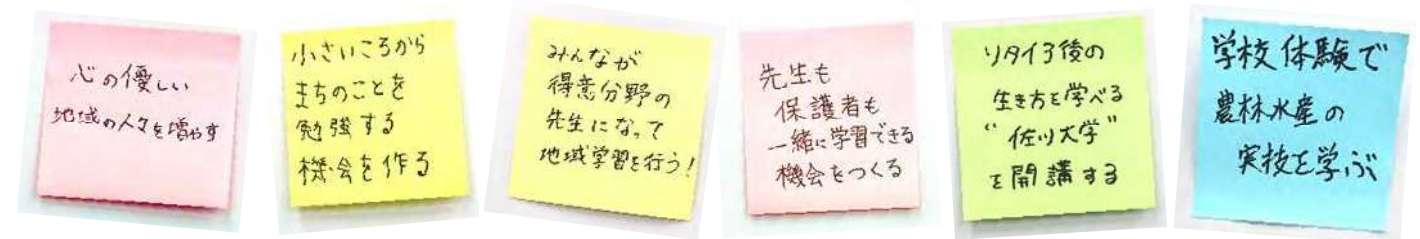
今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(教育分野)



様々な取り組みが評価されたためか、2014年と比べると多くの項目で5～10ポイント以上の改善が見られますが、生涯教育だけは前回のポイントを上回っていますので、さらなる充実が必要です。

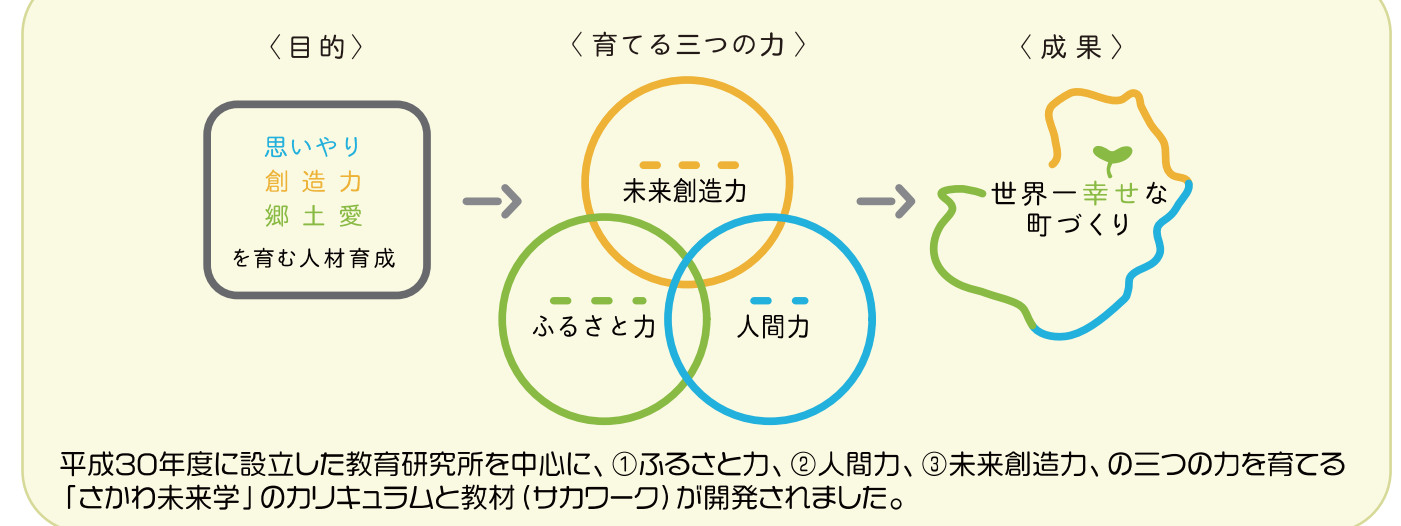
2014

みなさんから寄せられた「教育」に関する、ご意見やアイデア。



そこで… 佐川町の子どもたちには、町の歴史や文化、偉人、自然、生活、産業などを知り、将来に希望を持って力強く生き抜く人材に育ってほしい。そんな思いから創られた…

さかわ未来学



ふるさと教育の教材「サカワーク」



デジタル教材を活用したプログラミング教育



整備が完了した学校のICT環境を活用し、町内すべての小中学校で「さかわ未来学」が本年度より本格的に始まっています。

インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー
Information and Communication Technology=情報通信技術

今後は集落活動センターにもタブレット端末を配備し、年齢を問わず利用できる、ICT環境を活用した「ふるさと教育」と「学びあいの輪」を、まち全体に広げていきます。

山を育てることが、水源や土壌・緑を豊かにし、仕事をつくり、まちを育てる。

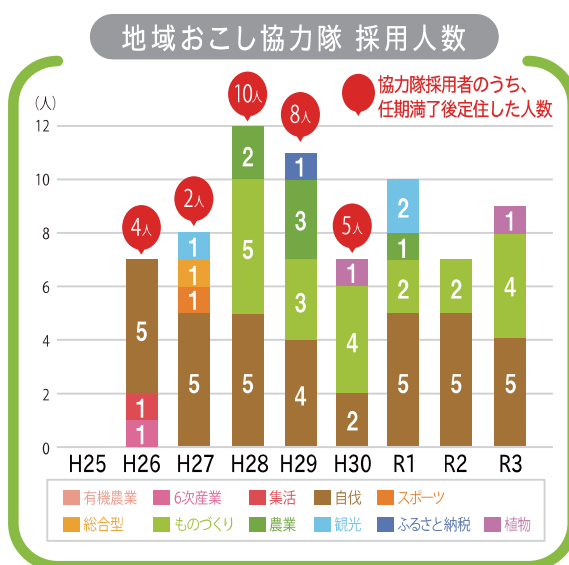


さかわ発明ラボ
プロも使用するデジタル工作機器を使って誰もがものづくりに挑戦できる場として、これまでこのへ4303人の方に利用していただいています。
また一方で、佐川町産の木材を使った製品の企画、開発も行っています。
生み出された商品の中には、いろいろ福祉作業所で生産され、ふるさと納税の返礼品のほか町内外のショップでも販売されているものもあります。
今後、販売数とともに、新商品開発への参入者をさらに増やしていきたい。



自伐型林業
採算性と環境保全を
高次元で両立する持続的森林経営

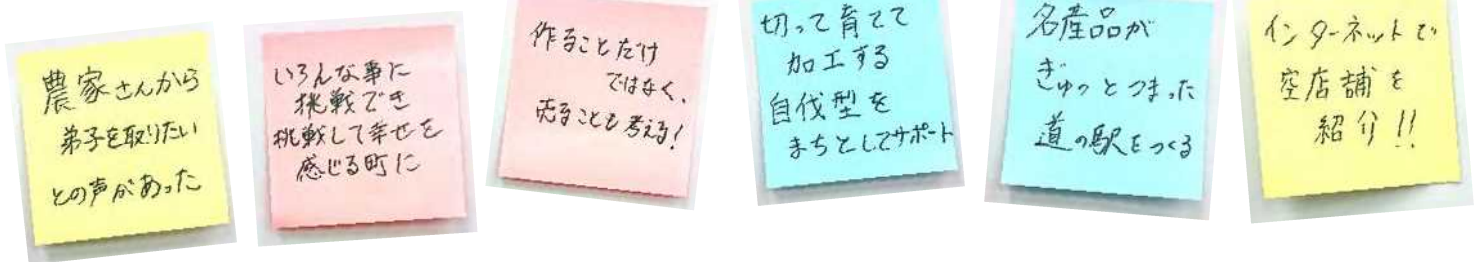
担い手を確保するため、地域おこし協力隊の雇用と森林所有者を含めた研修を実施。町に管理を委託していただいた林地は625ha以上になりました。森林管理のための情報基盤も、森林ICTプラットフォームの構築と航空レーザー測量によって大幅に充実。こうした取り組みは、平成31年に施行された森林経営管理法の先進的なモデルとなっている。さらなる佐川町の森林環境の向上と産業・人材の育成を推進していきます。



地域おこし協力隊
佐川町では少子高齢化や人口の減少により、地域のコミュニティや産業の担い手不足が深刻になりつつあります。このため、国の制度をフルに活用して地域おこし協力隊を積極的に採用しています。
また、協力隊の任期である3年経過後も6割以上が佐川に定住し活躍しています。

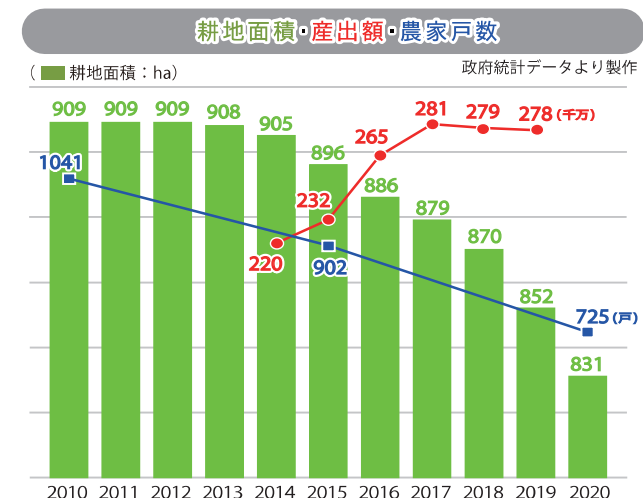
2014

産業と仕事に関して 寄せられた、ご意見・アイデア。



佐川町の特産であるお茶は、付加価値の高い茶葉やスイーツなどに加工・販売する6次産業化が進んでいます。

～耕地面積・農家数は減少するも、産出額は増加～



農業振興
頑張る 佐川の農家・畜産家さん！

農地を適正に維持管理する団体に国の制度を活用した助成を行っています。耕作面積の減少が進んでいます。生産基盤の下支えをしっかりと行い、集落営農組織への発展に向けた取り組みにも支援していきます。



道の駅完成予想図



令和5年度の開業を目指す道の駅に向けて着実に準備が進んでいます。「地のものを使った商品開発・所得向上・担い手の育成」の好循環をまち全体に広げます。



通貨処理機メーカーのグローリープロダクツ(本社:兵庫県)高知工場を加茂地区に誘致。さらなる増産と雇用拡大に期待が寄せられています。

2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(産業分野)



「企業誘致、雇用の確保」は10ポイント以上の改善が見られますが、力を入れるべきこと1位には変わりありません。地域の担い手となる人材を増やすためにも「しごと創出」を中心に進めていきます。

⑦ 広報さかわ R3.7 次回は、③「結婚・出産・育児」④「観光振興と情報発信」について紹介します。

広報さかわ R3.7 ⑥



みなさんの生活や想い、行動にも
何か変化がありましたでしょうか？

2015.2.11開催 しあわせ会議のようす（桜座）

まじめに、おもしろく、みんなでつくった総合計画も折り返し地点。

5年間、町民一人ひとりの「やってみよう」という気持ちが存分に発揮される

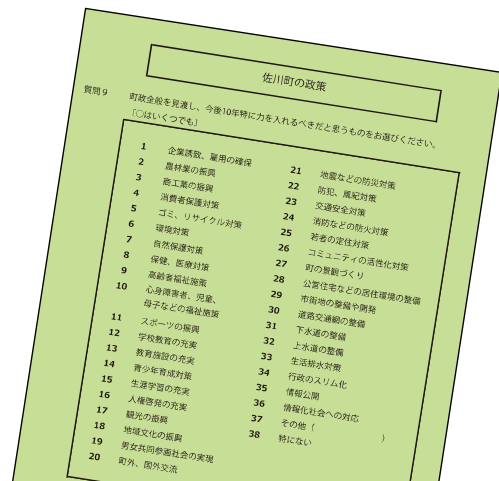
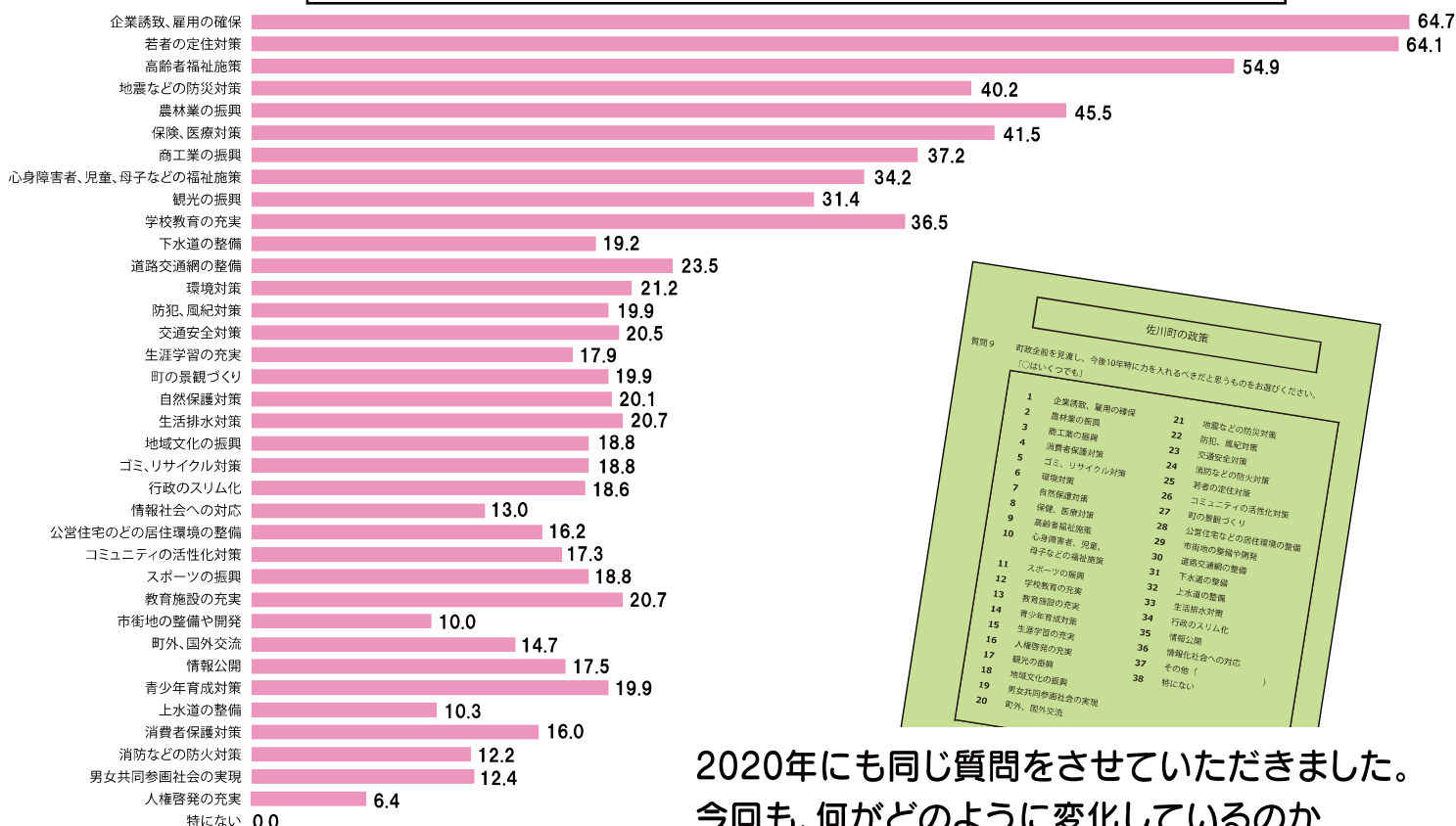
まちづくりに「チームさかわ」で取り組んできました。

こうした様々な取り組みの”今“を3回にわたって紹介しています。

今月は③「結婚・出産・育児」④「観光振興・情報発信」について。

2014 年 みなさんをお願いしたアンケートのひとつです。

質問：町政全般を見渡し、今後10年特に力を入れるべきだと思うもの



2020年にも同じ質問をさせていただきました。
今回も、何がどのように変化しているのか
見ていきたいと思います。

③ 広報さかわ R3.8

みんなでつくる 第5次佐川町総合計画

中間報告 2



7月号

①教育
②産業と仕事

8月号

③結婚・出産・育児
④観光振興と情報発信

9月号

⑤健康と福祉
⑥安全・安心
⑦行財政

広報さかわ

8月号

令和3年8月1日発行

今月の表紙



さかわの美味しい夏がやってきた！今年も地元食材を使った想像もできないような、わくわくのかき氷ができました。「さかわのかき氷街道」も開催されていますので、みなさんもぜひ食べに来てください。佐川町の魅力がいっぱい詰まったかき氷で、今年も暑い夏を笑顔で乗りきりましょう。

PICK UP CONTENTS

- P 2 〔特集〕
総合計画 中間報告2
- P 8 高北病院
- P 10 子育て・健康応援ページ
- P 12 おしらせ
- P 25 地質館だより
- P 28 ボタニカルニュース
- P 29 青山文庫だより & 文芸
- P 30 さかわ観光協会
- P 31 さかわ発明ラボ
- P 32 としょかんだより
- P 33 学校だより-斗賀野小学校-

広報さかわ R3.8 ②

～地域で取り組む子育て～ ファミリーサポートセンター

会員登録制による乳幼児や小学生等の預かりや保育所の送迎を行う相互援助事業。会員には、子育てをサポートする「まかせて会員」とサポートを必要とする「おねがい会員」があり、年々増加しています。しかし、登録会員数と比較して実際に利用、実働した会員は、それぞれ2割程度にとどまっています。このため、積極的な利用が呼び掛けられていますが、現行制度の課題を検証するなどして改善に取り組むことが必要です。



ウッドスタート事業

子どものころから木に触れることで豊かな心を育む「木育」の取り組みを進めるため、乳児に町産材で作られた「積み木」がお誕生祝としてプレゼントされています。



結婚から子育てまでの段階ごとの情報が、24時間いつでも得られるようICTを活用したサービスです。病院、救急情報や子どもと一緒に楽しめるお出かけスポット、各種手当・支援の情報なども掲載されており、利用者は年々増えています。

〈知りたい〉	〈相談したい〉	〈交流したい〉	〈困ったときは〉
親と子どもを支える制度や情報を案内	妊娠期から子育てまでのお悩み相談窓口	子育て世代とつながる情報を案内	総合的なサポート機関を紹介
・ひとり親家庭への支援制度や乳幼児健康診査など	・子育て支援拠点『子育て世代包括支援センター』などの情報	・佐川町どんぐり会、児童館活動事業「わんぱく広場」など	・小児救急電話相談など



子育て世代包括支援センター

県外から移住し、近くに縁者もおらず、実家にも帰ることもできなかったのですがいろいろとサポートを受けながら安心して出産できました。産後も経験豊かなヘルパーさんが自宅まで来てくれて、本当に助かりました。

新人ママの声

保育園前後の隙間時間に預かりや送迎があり仕事を続けることができるのでありがたい。

手続きがもっと簡単で、迅速にサービスを受けれるようにしてほしい。

2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの（結婚・出産・育児関連分野）

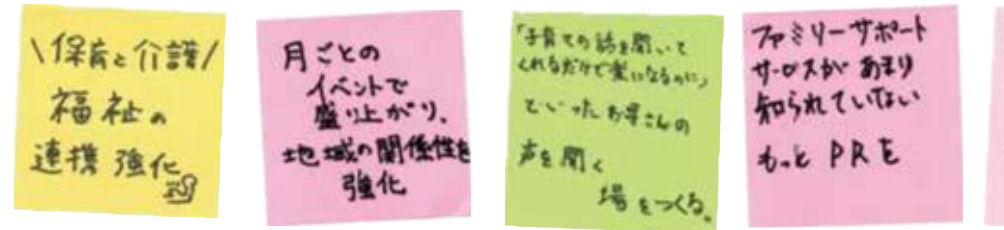
若者の定住対策	46.8	64.1
保険、医療対策	35.7	41.5
心身障害者、児童、母子などの福祉施設	31.5	34.2
コミュニティの活性化対策	17.3	17.4
男女共同参画社会の実現	9.6	12.4

2014

結婚・出産・育児という限られた期間のことがらのためか、大きな変化はありませんが徐々に改善されているようです。

2014

みなさんから寄せられた ご意見やアイデア。



～結婚から子育てまでを切れ目なく応援～

佐川町では平成29年に「子育てしやすいまち宣言」を行い、「出会い～結婚～妊娠～出産～子育て」までを切れ目なく支援する体制を構築し、地域ぐるみで子どもを育てる環境整備を進めています。一方で、出会いや子育ての応援には、なお一層の町民のみなさまのご協力を必要としています。



子育て世代包括支援センター
平成30年に開設された、子育て世代包括支援センター。健やかな妊娠期を過ごし、安心して出産・子育てができるよう「かわせみ」内に設置されています。常駐する母子保健コーディネーター（保健師）や、管理栄養士・歯科衛生士・保育士が相談にのりますので、お気軽に訪ねてください。毎週水曜日は永野保育所でも開設されています。



子供と安心して遊べるよう、ままごとコーナーや赤ちゃんコーナー・絵本コーナーなども設置されています。戸外遊びもできますよ。



牧野富太郎博士のふるさと佐川町は まちが“まるごと植物園”？

町全体を植物園に見立て、町民が行う植物に関わる活動を通じて人々がつながりあう「植物が中心にある町」を目指した取り組みです。牧野公園から家の鉢や庭、店の軒先や地域の花壇など、“育てるを楽しむ”場所に立てることができるロゴプレートは、まさに「まち」が「まるごと植物園」のように広がるシンボル。令和2年2月のスタート以来、既に100か所を超え、町内の至る所で見かけるようになっています。



まちまるごと植物園



「ZiRoを使用した即時性の高い双方方向での情報提供のシステム作りに取り組んでいます。」

佐川の魅力発信！
インスタグラムやフェイスブック・Youtubeによる情報発信を強化するとともに、

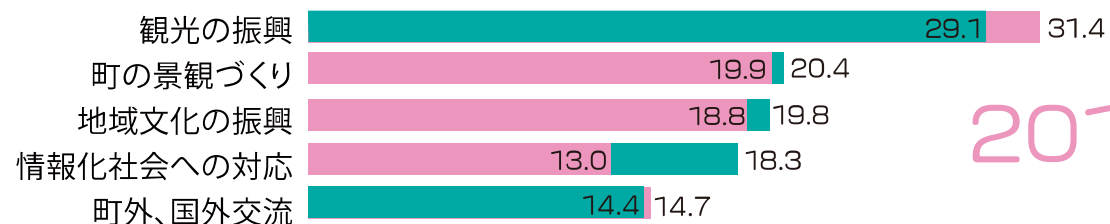
～上町観光も人気上昇中！～



かつて佐川の観光といえば、極めて短い花見の期間に限られていましたが、白壁の酒蔵群や旧商家などの街並みに加え、佐川文庫庫舎、牧野博士の生家、名教館の移築や再生が行われ、上町の魅力が一層高まっています。牧野公園も桜だけでなく博士ゆかりの植物が数多く育てられ一年を通して楽しめる公園になりつつあります。

2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの（観光振興と情報発信分野）

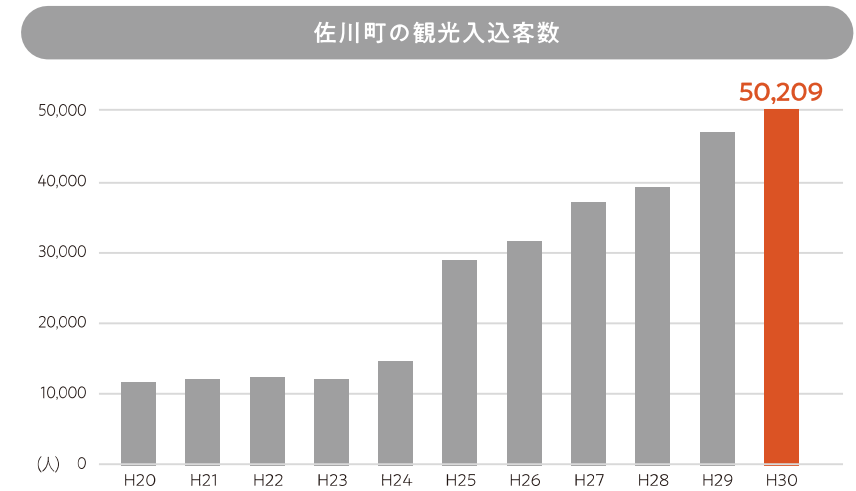
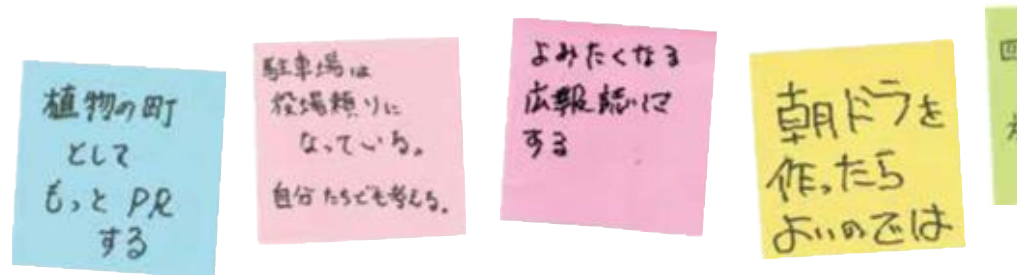


観光の分野では大きな変化はありませんが、情報化社会への対応に関しては早急な対策が望まれています。ICTのインフラを含めしっかりと整備していく必要があります。

⑦ 広報さかわ R3.8 次回は、⑤「健康と福祉」⑥「安全・安心」⑦「行財政」について紹介します。

2014

観光振興と情報発信に関して 寄せられた、ご意見・アイデア。



町民パワー炸裂！観光客が大幅増加！
観光振興

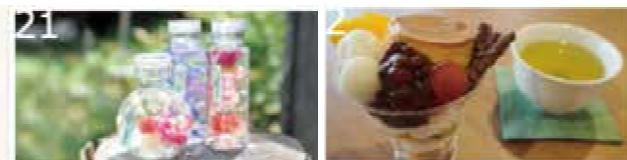
観光入込客数は、近年上町の歴史的風致地区を中心に大幅に増加。その原動力になっているのは、「くろがねの会」や「牧野公園はなもりC-LOVE」をはじめ町民の方々の活躍です。また、佐川観光協会や仁淀ブルー観光協議会が実施するイベントやツアー誘致も大きく貢献しています。さらに、「わんさかわっしょい体験博」や「うえまち駅」などの新たな施策や施設整備も進んでおり、令和5年に予定される「まきのさんの道の駅佐川」の開業を契機に一層の飛躍が期待されています。



町歩きガイドをおこなう「くろがねの会」

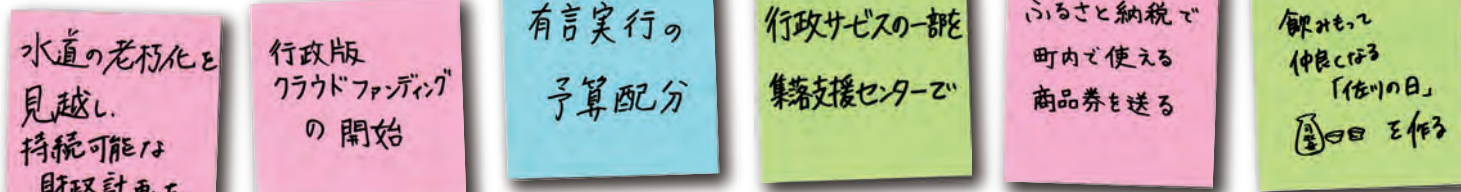


牧野公園で植栽中の「牧野公園はなもり C-LOVE」



令和元年からは、町民の方々が様々な体験メニューを提供する「わんさかわっしょい体験博」が始まり、これまでに合計 626 人の参加者を集めました。この取り組みは注目をあび、町外へと広がりをみせています。

広報さかわ R3.8 ⑥



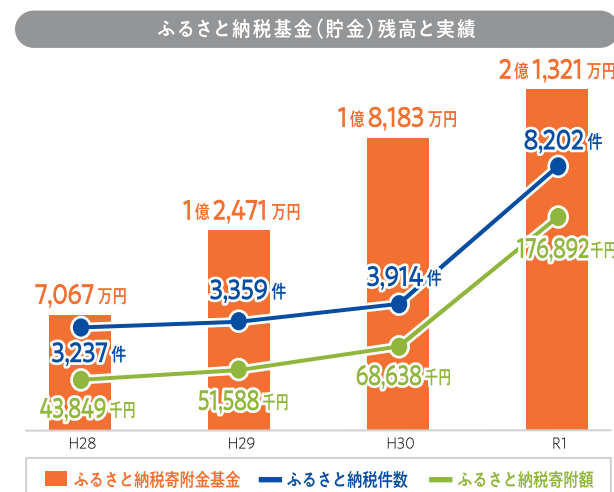
～将来を見据えた財政運営～

佐川町の財政は、収入のうち町税などの自主財源は約1/4であり、残りの約3/4は国、県からの補助・交付金や借金である町債に依存しています。決して余裕があるわけではありませんが、近年は国の地方創生施策やふるさと納税等を積極的に取り込むことで、財源確保を図っています。その結果、財政の健全性を示す健全化判断比率は、5つの指標全てが改善を要する基準を大きく下回っており、将来の行政のニーズにも対応できる健全な財政運営がなされています。



年々拡大するふるさと納税と返礼品

佐川町へのふるさと納税は年々増えており、令和2年度には2億3千万円を超え、基金への積立額も2億円を超えています。納税者への返礼品は、現在150種類以上、町内事業者にとっても新たな販路を開きつつあるとされています。



町民と役場をつなぐ広報・SNS



正確で、より見やすい、わかりやすいなることを目指し、リニューアルや改善をおこなっています。

2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(行財政分野)



2014

みんなでつくる 第5次佐川町総合計画

中間報告 3



まじめに、おもしろく、みんなでつくった総合計画も折り返し地点。5年間、町民一人ひとりの「やってみよう」という気持ちが存分に発揮されるまちづくりに「チームさかわ」で取り組んできました。こうした様々な取り組みの“今”を3回にわたって紹介しています。

9月号 ⑤健康と福祉 ⑥安全・安心 ⑦行財政

5年間を振り返る動画を作成しました。ぜひご覧ください！

役場公式YouTube



佐川町ならではの化石発掘や山野草など地域資源をいかした体験プログラムが、しめる「わんさかわ」つよい体験博が、今年も開催されます。もの・食づくりや野外体験を通じて、佐川の魅力を再発見！佐川町のいいこと・いいヒト・いい物語に出会ってつながり、広げて輪になって。佐川町の魅力をより多くの方に知ってもらい、さかわの「わ(輪)」を広げていきましょう！

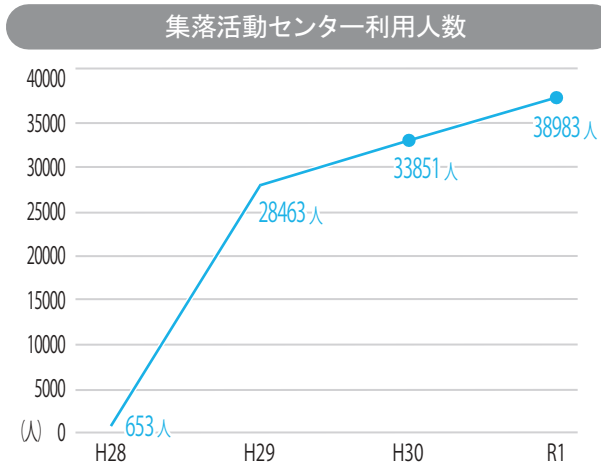
PICK UP CONTENTS

- P 2 [特集] 総合計画 中間報告 3
- P 8 高北病院
- P 10 子育て・健康応援ページ
- P 14 おしらせ
- P 25 地質館だより
- P 28 ボタニカルニュース
- P 29 青山文庫だより & 文芸
- P 30 さかわ観光協会
- P 31 さかわ発明ラボ
- P 32 としょかんだより
- P 33 学校だより-尾川小中学校-

「集落活動センター」

各地区とも住民主体の特色ある地域づくり活動が活発に行われ、住民同士のつながりを維持しながら地域の活性化に役立っています。

集落活動センターで行われたバーベキュー



あおぞら(斗賀野)

くらいわ(黒岩)

加茂の里(加茂)

たいこ岩(尾川)

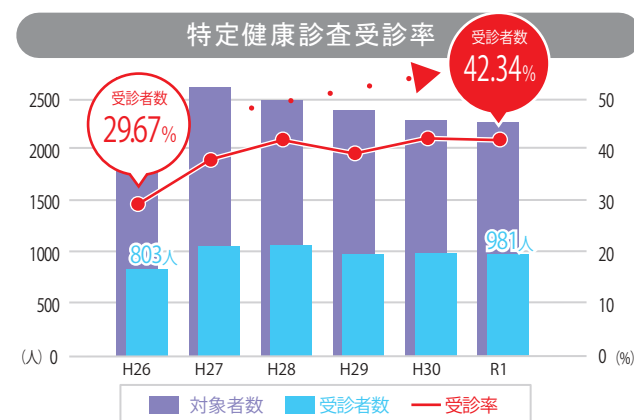
共生社会の実現に向けて「ぷらっとホームさかわ」オープン！



令和2年8月、「ぷらっとホームさかわ」が開所しました。この施設は、認知症にも対応したグループホームと、高齢者だけでなく障害者も利用できる共生型小規模多機能型居宅介護事業所の二つの役割を持っており、町内では初めて介護保険サービスと障害福祉サービスの両方を一か所提供できるようになりました。施設の1階には、高齢者や障害者が地域住民と交流できるスペースが用意されており、これを活用して共生社会の実現につながる活動が期待されています。

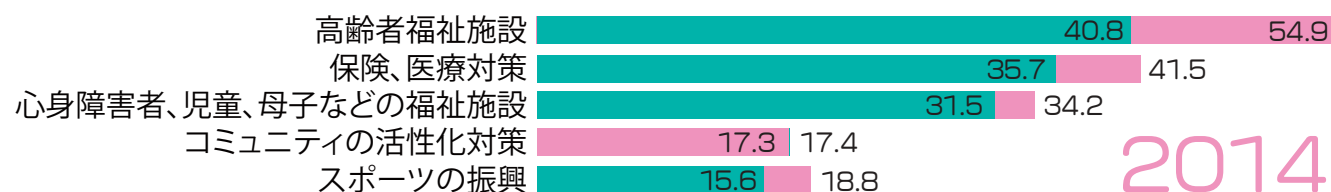
特定健診

平成27年度に特定健康診査の自己負担を無料化。28年度には第5次佐川町総合計画に「健康診断受診の習慣化の促進」を盛り込み、様々な取り組みが展開されています。多くの町民がこれらに参加し、健康づくりの意識も高まっています。



2020

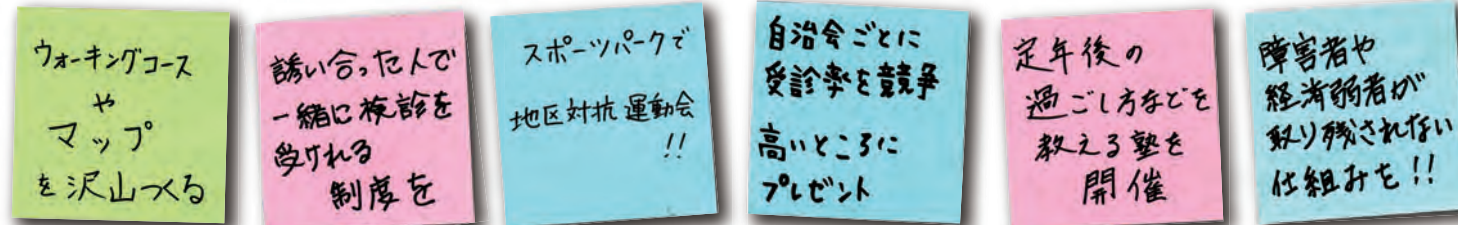
今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(健康と福祉分野)



高齢者福祉施設は、14ポイント以上の大きな改善が見られますが、今後も更なる健康と福祉の充実にも努めていきます。

2014

みなさんから寄せられた ご意見やアイデア。



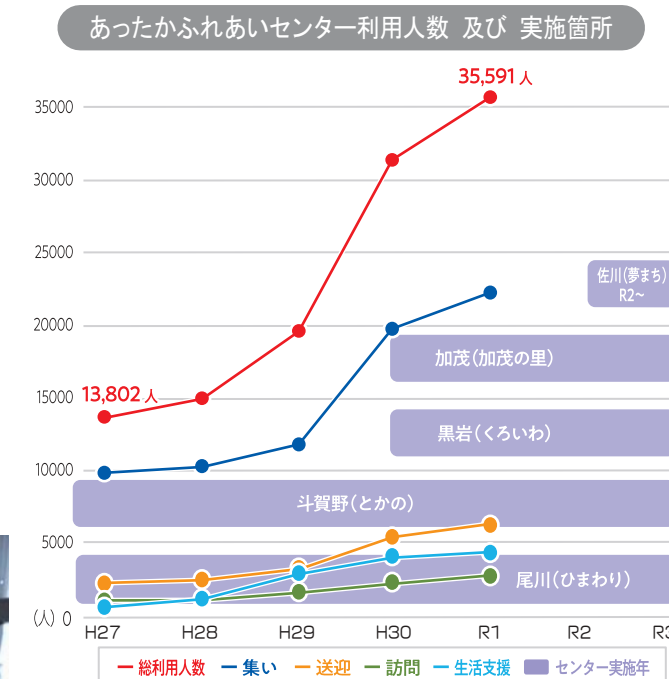
～住民の健康増進と支え合い活動の拠点として大活躍～

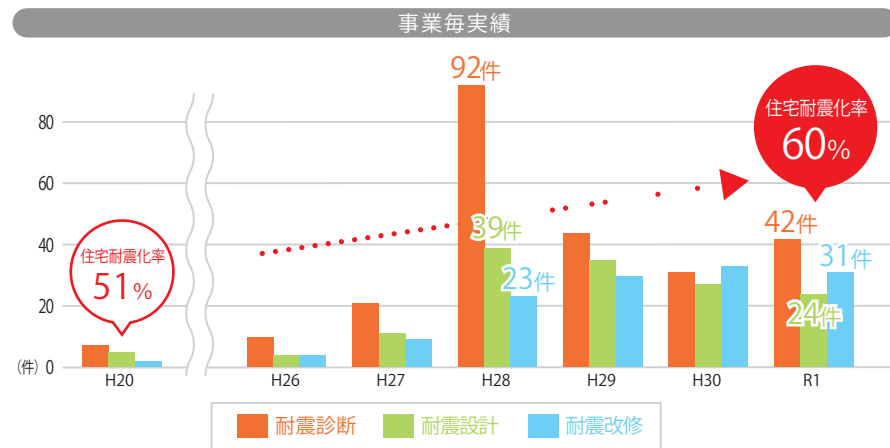


あったかふれあいセンターとかの あおぞら食堂の様子

「あったかふれあいセンター」

「集い」「訪問」「送迎」「生活支援」「交わる」「学ぶ」「相談」「つなぎ」といった、身近に寄り添う支援を地域と連携したイベントと組み合わせ実施するなど、各地域のスタッフが工夫して特色ある取り組みを展開し、利用者が年々増加しています。個人宅への見守り訪問のほかに、百歳体操グループへの訪問活動を実施するなど、住民の困りごとなどの相談や、地域課題を拾い上げる機会となっているほか、孤立防止にもつながっています。





急がれる住宅の耐震化

地震による建物の倒壊は、地震火災の発生や道路をふさぐことによる避難や救助活動の妨げにもなってしまいます。甚大な被害が予測される南海トラフ地震による被害を最小限にとどめるため、佐川町では平成17年から耐震化事業に着手し、住宅の耐震化や老朽住宅の除却に積極的に取り組み、耐震診断、設計、改修の件数も平成28年から大幅に増加しています。



老朽住宅除去前



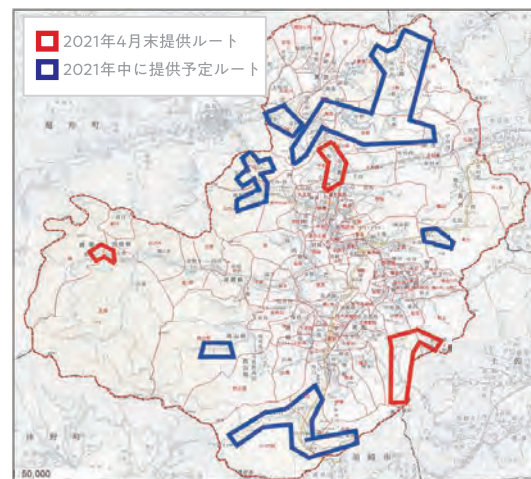
除去後



耐震化工事後の強化部の様子

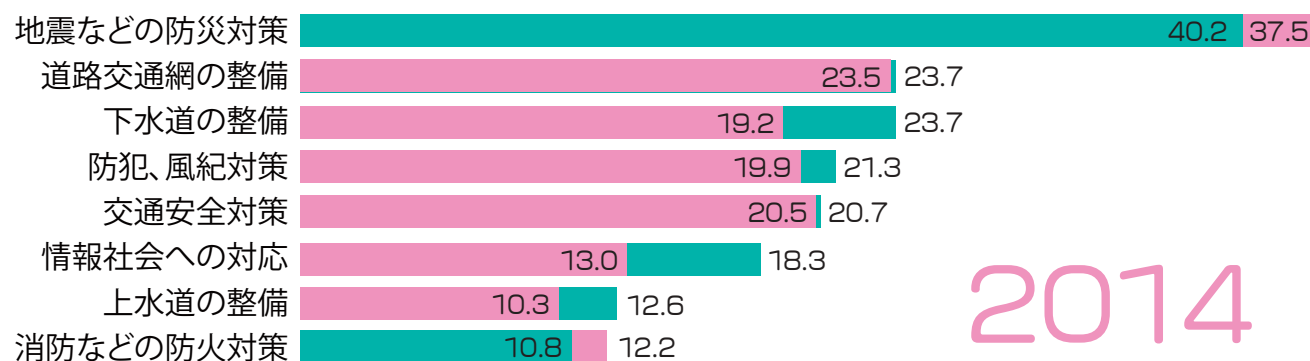
着々と進む町内ネットワーク整備

現代の生活や仕事に欠かせない情報通信環境。佐川町では、NTT 西日本による民設民営方式で整備が行われ、これまでに固定電話回線が通っているエリアの97.28%まで光通信の整備が進んできましたが、国の制度も活用して令和3年度中には整備率100%となる見込みとなっています。テレワークの推進や役場などの公共施設のICTネットワークの構築にも着手し、令和3年度には完成する予定です。役場内はもとより、町民と役場、町民同士のコミュニケーションが益々活発になり、チーム佐川でのまちづくりが一層進展することが期待されています。



2020

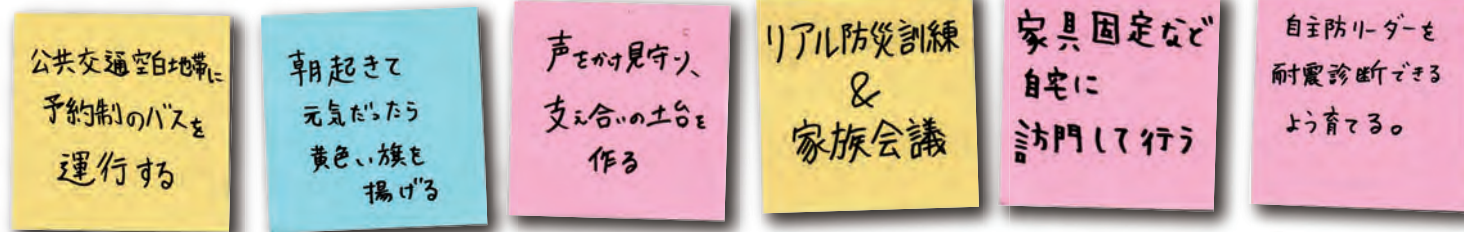
今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(安全・安心分野)



地震対策や、防火などには改善が見られますが、社会インフラの整備に関しては様々な対策が望まれています。今後もしっかりとしたまちづくりに取り組んでいきます。

2014

安全・安心に関して 寄せられた、ご意見・アイデア。

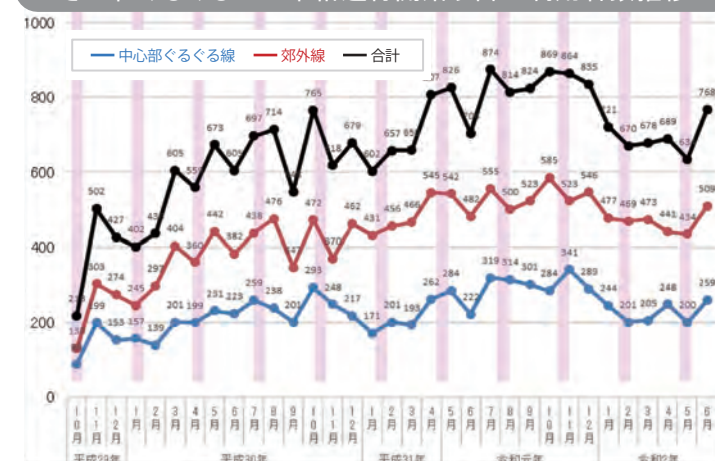


～町民の安全・安心な生活を支えるインフラ整備はこの5年間で着実に進んでいます～

さかわぐるぐるバス 路線図と運賃



さかわぐるぐるバス本格運行開始以降の利用者数推移



山野草デザインのバス、今日もぐるぐる佐川を巡る!



公共交通が行き届いていない地域の移動の便を改善するため、「さかわぐるぐるバス」が平成29年から運行を開始しました。1便当たりの乗車人数は、当初の1.3人から令和元年には2.47人に上昇。町民の身近な足として定着しつつあります。さらなる利便性向上のために、毎年、住民から聞き取りを行い、運行経路やダイヤの見直しを行っています。



生活に欠かせない道路・橋梁の長寿命化

佐川町では住民の日常生活や、いざという時の安全・安心に不可欠な基本インフラである道路、橋梁、トンネルなどを順次整備してきました。これらの多くは老朽化が進んでいますので、国の方針に基づき、将来の安全・安心の確保に向けて計画的な維持管理や更新等の取り組みが進められています。



改修前



改修後